

天守閣木造復元の技術提案

竹中工務店が476億円～504億円で提案 通常は10年～20年かかるといって2020年7月完成を示す

名古屋市は、名古屋城天守閣整備事業にかかる技術提案・交渉方式（設計交渉・施工タイプ）による公募型プロポーザルでの優先交渉権者を竹中工務店としました。公募には、安藤・間（はざま）と竹中の2社が応募し、選定委員（有識者ら8人）のうち6人が点数評価し、竹中を選定したものです。

そもそも天守閣木造復元が今必要か

そもそも木造復元が必要かどうかの議論も深まらないまま、「木造復元ありき」ですすめれるやり方に批判が広がっています。

総事業費は安藤・間が低く抑えたものの、プロジェクトの推進体制や緻密性、内部のエレベーターを小規模にするなど「史実に忠実な復元」といった観点で総合的に竹中が高評価を得たということです。木材調達には「原則、国産材で一部外材を使用する」となっています。

400億円から500億円に増額。それでも税金は使わない？

事業者決定を受け、河村たかし市長は「寸分たがわぬ復元ができるのは世界で名古屋城だけ。400年、1000年、名古屋のシンボルとして大事にしていきましょう。100%起債で賄い、毎年400万人訪れれば税金は使わず

に済む（中日新聞）」と述べています。

竹中工務店の計画は、総事業費を最大504億円としており、市長が説明した400億円より大幅な増額になっています。

400億円でも税金投入は避けられないといわれていますが、500億円となれば、財源見直しはどのようなのでしょうか。

4月7日の議会(経済水道委員会)で説明

4月7日に経財水道委員会が行われ、議会に報告したとして、2万人アンケートへと進み、6月には設計予算を議会に提案、契約する予定です。名古屋城跡は特別史跡のため、現状変更は文化庁との協議が必要です。通常数年はかかるといわれる協議を早々に済ませ、2017年6月には天守閣の取り壊しにかかり、2018年1月から木造復元工事に着手する予定になっています。市民の声も聞かずにどんどんすすめていく復元計画に、意見を出し合いたしましょう。



名古屋城天守閣整備事業での提案内容の比較

提案者	株式会社 竹中工務店名古屋支店			株式会社 安藤・間名古屋支店		
エレベーター	車椅子利用者用小型（4人乗り） （地層～初層、初層～4層）			高層一般ビル向け（11人乗り） （地層～5層）他 合計3台		
復元過程の公開方法	素屋根内見学施設 （5階建て）			復元インフォメーションセンター・ 見学スペース		
木材利用	原則、国産材。一部外材を使用			全て国産材を使用		
総事業費 (建設費・設計費)	石垣	ケーソン	総事業費	石垣	ケーソン	総事業費
	現状維持 保存	利用	473億円	現状維持 保存	利用	447億円
		不利用	478億円		不利用	448億円
	積直し	利用	499億円	積直し	利用	463億円
		不利用	504億円		不利用	464億円
	天守閣竣工時期	2020年7月			2020年6月	

名古屋城天守閣整備事業 評価結果
(委員8名の内、6名の合計点)

項目	配点	竹中	安藤・間
		評価	評価
業務の実施方針	180	144	108
・事業費 工期費	概算事業費	120	72
	工程計画	120	72
施設計画	バリアフリー化	240	144
	防災避難計画		
	木材の調達	180	144
	構造計画	360	216
	仮設計画		
	復元過程の公開法 現天守閣の記憶を 後世に伝える方策	120	96
合計点	1,320	1,056	852
	100%	80%	65%